

2015



vol.3

紀の国わかやま国体

The 70th National Sports Festival in wakayama



大会愛称・スローガン決定

CONTENTS

〈特集〉

サッカーワールドカップ日本代表
駒野友一選手インタビュー

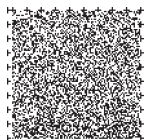
競技紹介「ハンドボール」

競技・選手を支える人
市川 真知子さん

PLAYER'S VOICE
県立箕島高校男子ソフトボール部

おしらせ情報

音声コード



音声コードは読上げ装置にて、
情報を音声で聞くことができます。



2015



The 70th National Sports Festival in wakayama

会場地市町村及び
開催競技(正式・特別)

スローガン

愛称

大会愛称・スローガン決定

2015(平成27)年に和歌山県で開催される第70回国民体育大会の愛称・スローガンが決定しました。
今後は、県民の皆さんはもとより、全国に向けて愛称・スローガンをPRし、一人でも多くの方が、第70回国民体育大会に関心を持っていただくことができるよう開催準備を進めていきます。

紀の国わかやま国体

〔趣旨〕「紀の国」は、万葉の時代より和歌山を表す言葉として使われ、今も県民に親しまれ、さまざまな場面で使われている言葉です。
第70回国民体育大会が和歌山県で開催されることを明確に示す「わかやま国体」に「紀の国」を付けた愛称が県民に親しまれるとともに、「紀の国」を全国に発信します。

躍動と歓喜、そして絆

〔趣旨〕活力に満ちたふるさとづくりに寄与する大会の実現を通じ、和歌山の元気・活力・躍動感を全国にアピールするとともに、大会に参加するすべての人が躍動し、歓喜する。そこに交流が生まれ、絆(きずな)が深まるような大会を目指すことをイメージしています。

会場地市町村	競技名
和歌山市	開・閉会式
	陸上競技
	水泳(競泳・水球)
	テニス
	体操(競技・新体操)
	バスケットボール
	セーリング
	ウエイトリフティング
	ハンドボール
	自転車(トラック)
	相撲
	フェンシング
	柔道
	ライフル射撃(CP)
海南市	バスケットボール
	銃剣道
橋本市	サッカー
	バレーボール
有田市	ソフトボール
	軟式野球
御坊市	バレーボール
	軟式野球
田辺市	サッカー
	ボクシング
新宮市	軟式野球
	弓道
紀の川市	サッカー
	ハンドボール
	ソフトボール

会場地市町村	競技名
岩出市	ハンドボール
	バドミントン
	ボウリング
紀美野町	ホッケー
	ゴルフ
かつらぎ町	なぎなた
	軟式野球
湯浅町	ホッケー
	ゴルフ
日高町	軟式野球
	山岳
印南町	カヌー
	(カヌースプリント)
みなべ町	アーチェリー
	ソフトテニス
日高川町	卓球
	空手道
白浜町	サッカー
	軟式野球
上富田町	ラグビーフットボール
	レスリング
那智勝浦町	剣道
	カヌー
北山村	(スラローム・ワイルド)
	ラグビーフットボール
串本町	高等学校野球(軟式)

〔県外開催の競技〕

門真市(大阪府)	水泳(飛込・シンクロ)
大津市(滋賀県)	ボート

※馬術、ライフル射撃(CP 除く)、クレール射撃については検討中



Interview ～和歌山県はサッカーワールドカップ日本代表を応援します!～

サッカー「2010 FIFA ワールドカップ南アフリカ」に臨む日本代表に海南市出身の駒野友一選手(ジュビロ磐田)が06ドイツ大会に続き2度目の選出。「大変うれしく思っている」と素直に喜ぶ一方で「4年前の悔しさが忘れられない」と予選敗退の記憶は鮮明に残っている。「借りを返す意味でも今回はこれまで以上の気持ちがある」と燃える。

2度目のW杯は「一度経験している分イメージしやすい」が、相手も場所も異なりイメージ通りにいかないのが常。それでも「どんな大会になるか楽しみ」とプレッシャーは感じていない様子。目標は「監督が言っているベスト4」ときっぱり話し「笑顔で胸を張って日本に帰ってこられるよう、ベストを尽くして自分の力を100%発揮していきたい」と思いを馳せる。そしてそれを果たす原動力が、自身を取り巻く関係者や仲間、サポーター、そして家族への「強い感謝の思い」だ。

振り返ればこれまでの人生の大半をと共に歩んできたサッカーは「人生そのもの。全てサッカーで経験し学んだ」。中学卒業後、故郷

国体は、今に繋がる「最高の舞台」「夢に向かって走る」子どもたちを心待ち

特集

サッカーワールドカップ日本代表

駒野友一選手インタビュー

を離れサンフレッチェ広島ユース加入を決意したのもこんな日があることを夢見ていたから。

広島県立吉田高校時代には、広島代表として2度の国体出場を果たした。ユース所属の駒野選手にとって「当時の最高レベルの大会だった」といい「県を代表するということに誇りを持っていた」。当然、広島県代表に「違和感」がなかったわけではなかったが「和歌山の代表でもあると自分では考えていた」という。所属チームを越えた仲間と「切磋琢磨し高い目標に向かって頑張った思い出や気持ちは貴重に感じる」と今に繋がり、自身にとって「最高の舞台だった」。

そんな国体が故郷・和歌山で開かれる。さまざまな競技のレベルアップやまちの活性化への期待もあるが、何より「子どもたちを中心に大きな目標や夢が広がればいいな」と、自分自身がそうだったように「夢に向かって走る」子どもたちの出現を心待ちにする。「目標を高く持って頑張っている。頑張った分だけ自分に返ってくる。夢叶わぬとも必ずそれは残るはず」というメッセージを込めながら。



こまのゆういち
駒野友一(ジュビロ磐田)

和歌山県海南市出身。1981年生まれ。海南市立第三中学校卒業後、サンフレッチェ広島ユース(広島県立吉田高等学校)を経て2000年サンフレッチェ広島とプロ契約。2008年よりジュビロ磐田に所属。2004年のアテネオリンピックサッカー日本代表として招集されるなど、年代別代表でも活躍。国体には広島県代表として2度出場している。(1998年、1999年)

シリーズ

競技
紹介

ハンドボール

空中技が醍醐味のハードな総合競技
走・投・跳・激しいボディコンタクトが魅力



黒潮国体で岩出市や紀の川市（旧打田町）に試合会場があったことから、県内では岩出市以東の紀北地方で盛ん。この地方では、公立中学校の部活動も盛んなことに加え、県内3つのジュニアチームのうち2チームが活動する。ただ県全域では黒潮国体以降も広がりを見せておらず、普及が最大の課題となっている。

協会は「フットサルとバスケットボールをミックスしたようなスポーツ」と親しみやすさをアピール。チーム構成は6人のフィールドプレイヤーとゴールキーパー1人の計7人。20×40メートルのコートで、ドッジボールより小さい外周60センチ弱の3号球（女子は2号球）を奪い合い、高さ2メートル、幅3メートルのゴールを狙って得点を競う。バスケットボールのルールに似ていて、攻守の切り替えが早く、速いパス回しで狙うゴールや目まぐるしい展開が醍醐味。キーパーしか入れないゴールエリアにジャンプ



練習に励むジュニアチーム
（和歌山/ハンドボール教室）の子供達

シュートで臨むなど空中技も魅力だ。協会は「走る、投げる、跳ぶ、そして身体接触もあるハードな総合競技」と観戦の楽しさも強調する。

全国的には九州、東海地方などに国



ジャンプシュートを練習するジュニアチーム
（和歌山/ハンドボール教室）の子供達

内最高の日本1部リーグで活躍する実業団やクラブチームが多い。近畿も「高校女子レベルは必ず抜けている」（協会）というように、インターハイでも大阪、兵庫、京都が上位を独占している情勢で男子のレベルも決して低くない。

一方、和歌山県は近年では97年のなみはや国体に少年女子が出場、00年のとやま国体に少年男子が出場して以来、県勢の国体出場はない。

協会では地元国体に向け、競技レベル向上と普及のため今年3月に初めて「ハンドボールフェスティバル」を県立橋本体育館で開催。県の国体関連事業「トップ強化コーチ招へい事業」を活用して、今年8月に韓国の元五輪メダリストによる中学生選手の指導を予定するなど活動を活性化させている。協会は「5年後に全国トップに持ってくることは難しいが、確実にポイントを取るという目標のもと成年・少年男女4部のベスト8進出を何何でも達成する」と意気込む。

競技・選手を支える人

教職に就いたのは「絶対良い選手になるから大学でもフエシングをやりなさい。教師になりなさい」という高校時代の恩師の強い勧めがあったから。卒業の時「お前が世界に行くか、俺が全国制覇するか競争だ」と送り出された。4年後、日本代表入りし、世界選手権へ。同じ年、恩師も後輩たちを率いインターハイ優勝を果たす。2人の勝負は「引き分け」だった、改めて恩師への尊敬を強めた。「憧れの先生、教師としての見本です」。

日本が不参加となった、モスクワ五輪の代表選手の一人。以後、国際大会の出場を自ら断ち国内で現役続行。「万年2位の選手」だったが、結婚し、長男の誕生をきっかけに国内大会で常勝。「負ける気がしなかった」と全日本選手権3連覇を果たす。まさに母強しだった。

指導者としてもその力を開花し、教え子を全国舞台に押し上げる。初めて日本一を果たした00年のインターハイ岐阜大会。優勝した男子団体のメンバーに長男がいた。「息子とは誕生日も一緒に運命を感じる」と微笑む。その後、女子団体でも05年のインターハイ、国体で日本一に。翌年の全国選抜も制するなど、これまで男女合わせて6度の全国制覇。個人戦では5選手を日本一に導いた。

「できなかったことができるようになっていく。そこまで引き上げていく過程が楽しいし、一緒になって喜べるのがうれしい」。顧問になって30数年は同じことの繰り返しだが、教え子の成長に日々心躍らせる。「全国制覇じゃなく、世界に羽ばたける子を育てる」。その思いで毎日子どもたちと向き合う。

現在は、ゴールデンキッズを含む小中学生も高校生に混じって練習。「この子らが5年後の地元国体で戦ってくれるはず」と楽しみで「強化選手の育成を通じてフエシングの人氣も出てくれば」と競技人口の拡大にも期待。「まだまだ高校生には負けない。私に勝つ子は全国でも必ず上位に行く」。その剣は選手たちの活躍を占うバロメーターだ。



県立和歌山北高校体育教諭 フエシング部顧問
市川 真知子さん

1956年、秋田県生まれ。聖霊女子短大付属高時代にインターハイ2度出場。3年生の時は国体県代表メンバー唯一の高校生として団体優勝の原動力に。日本女子体育大進学後、日本代表に選ばれ世界選手権出場。78年に和歌山北高校体育科教諭に採用。80年のモスクワ五輪代表に選ばれたが日本不参加以後、国内大会で活躍し、全日本選手権では84年大会から3連覇。団体優勝は6回。同部顧問としてインターハイ団体優勝を男女各1回、全国選抜女子団体優勝1回、国体少年女子監督として団体優勝3回。



選手らの日々の成長に
心躍らせ指導する市川先生



PLAYER'S VOICE

県立箕島高校男子ソフトボール部
優勝当時のメンバー

選手：	正 山崎 翔平	溝上 郁英	山崎 将毅
川口 浦	孝佑 山本 将毅	山崎 谷口	将毅
宮本 泰一	山崎 康記	松原 康記	康記
沖井 勇馬	敦史 平岩	平岩 勇樹	勇樹
王蔵 敦史	(以上当時2年生)	安中 樹希	樹希
笹垣 貴	中西 海博	川西 寛幸	寛幸
北 武憲	有本 悠真	大庭 佳起	佳起
中井 陣	箸尾 知哉	(以上当時1年生)	
岡室 健斗			

マネージャー：的場 安加里 (当時2年生)

※写真は現在のメンバーです。

今春、19年ぶり 2度目の全国制覇！

箕島高校男子ソフトボール部は県内唯一の男子チーム。小中学校合わせても他にない。そんな後進県のチームが、今春の第28回全国高校選抜大会(平成22年3月19日〜22日、静岡県富士宮市)で日本一に輝いた。「だれも予想しなかったはず。奇跡に近い結果だ」と監督就任8年目の森井啓宏監督(40)は笑う。

過去には紀北農芸、伊都、貴志川高校などにも同部はあったが、少子化と野球王国と呼ばれる土地柄もあって部員不足に陥った。例に漏れず箕島も部員集めには苦労しているが、同部OBの森井監督の情熱のもと選手が集い、今年は「過去10年で一番多い」という1年生から3年生まで31人が所属。全員が野球経験者だが、川口正主将は「野球より展開が早くて飽きない。常に緊張感がある」と魅力を話し、山崎副将は「食わず嫌い」と競技人口が少ない理由を指摘する。

実は、全国制覇は2回目。19年前の「春」も制している。やはり野球王国とあって選手らに素地が備わっている。「奇跡に近い」と話した森井監督も「ソフトボールは初心者だが、身体能力の高い子がそろっていた」と可能性を感じてはいた。

ただ「ピッチャーだけではどうにもならない」と話すように、独特な投法をマスターするには時間が足らず投手力こそ劣るが、試合勘を養う年間約180試合の遠征試合や投手力の弱さを補う「機動力」があった。その可能性を選手らも感じていたのか、今大会主戦で投げた山本誠弥副将は「昨年より試合に入る雰囲気は確実に違った。盛

り上がりはハンパじゃなかった」と振り返る。

優勝候補の一角・飛龍高(静岡)との初戦を制して一気に勢いづき、大村工高(長崎)との決勝では4点ビハインドの最終回に6点を奪って逆転優勝。「ソフトボールをやって良かった、とみんなが口にした」と山崎副将。飛龍高戦でダメ押し3点適時二塁打を放った北武憲選手は、中学卒業まで野球漬の9年間だったが「今まで一番の打席だった」と喜ぶ。

次はインターハイで春夏連覇を目指し、国体で高校3冠達成を狙う。ただ国体は「他府県は選抜チーム。うちは単独チーム」と森井監督は近畿予選突破さえ厳しい情勢を説明。過去に国体へ出場したのは計5回、最高は選抜大会初優勝チームで臨んだ平成3年の4強。川口主将は「今はインターハイが大事だが、国体もやるからには勝ちたい」と意気込み「箕島でなく、和歌山代表という背負うものの大きさがある」とその意義を話す。

ホストとして来県チームが喜んでくれる環境を整えることへのプレッシャーや不安もあるが、5年後の地元国体は「地域の人にソフトボールを知ってもらうチャンス」と森井監督は競技人口増に期待している。卒業後の受け皿の乏しさがネックであるが、現メンバーの中には「地元貢献したい」(山崎副将)「和歌山を有名にしたい」(山本副将)と地元国体を目指して現役続行の意志を示す選手もいる。



2015 紀の国わかやま国体

vol.3 2010年6月発行

第70回国民体育大会広報紙「2015わかやま国体だより」は、「2015紀の国わかやま国体」に名称を変更しました。

第70回国民体育大会和歌山県準備委員会事務局
(和歌山県国体準備課内)

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

TEL.073-441-2015 FAX.073-427-5377

URL <http://www.wakayama2015.jp/>

E-mail wakayama2015@onyx.ocn.ne.jp

ホームページは、[紀の国わかやま国体](http://www.wakayama2015.jp/)

検索

みなさまのご意見・ご要望をお待ちしております。



この印刷物は環境に配慮して大豆インキを使用し、ユニバーサルデザインの考え方で作られています。

おしらせ情報

国体募金スタート!

第70回国民体育大会と第15回全国障害者スポーツ大会において、ボランティア活動などの大会運営に活用させていただきます。皆様のご協力をお願いします。詳しくはホームページをご覧ください。

